國　新　聞　　第3種郵便物認可

津幡町 新病院を建設

河北中央の移転検討

年度内に委員会設置

病室や駐車場を拡張

津幡町は11日までに、同町津幡の公立河北中央病院を新築する方針を固めた。31年前に建てられた現在の施設が手狭となり、設備なども老朽化しているためで、入院用の病室や駐車場の拡張などを想定する。年度内に庁内で新病院の建設検討委員会を設置し、さらなる医療提供体制の充実を図るために必要な施設規模や移転の可能性も含めて最適な建設地を協議する。

河北中央病院は1951（昭和26）年、河北郡国民健康保険団体連合会が設立した病院が前身で、59年に津幡町立となった。鉄筋コンクリート造5階建ての病院本館は1992年3月、旧病院横に建設され、敷地は借地も含めて約7500平方㍍となっている。

同病院事務課によると、職員約100人に対して、来院者用も含めた駐車場が約160台分と少ない。本館は給排水や空調など設備の老朽化が進み、60床ある入院患者の病室1人当たりの面積も現在の国の基準より小さいため、建て替えか新築による規模の拡大が課題となっていた。

2019年には、厚生労働省から再編協議が必要な病院の一つに挙げられたが、同年度の決算で純利益が7年ぶりに黒字転換して以降、新型コロナウイルスに関連した国の補助金を除いても最終黒字が続いており、新病院建設の決断を後押しした。

検討委員会では、規模などの基本構想や、バス、鉄道駅からの利便性を考慮した建設場所の選定、整備スケジュール、診療部門別の方針、将来の収支計画などを協議する。

同病院は、改修前に何度か氾濫したことがある津幡川沿いにあるため、より安全性の高い場所への移転を求める声もある。矢田富郎町長は建設地について「交通アクセスに優れ、災害に強いことや、十分な用地が確保できることなどを総合的に判断して選定したい」と述べた。

津幡町が移転も含めて新築する方針を固めた公立河北中央病院＝同町津幡

蒔絵でチョウ

輪島塗のヘルメット

自転車利用時の啓発へ市役所で

輪島市役所で11日までに、の技法「蒔絵」で装飾したヘルメットの展示が始まったから自転車利用者のヘルメットが努力義務化されたことを通して啓発する。

ヘルメットは黒漆塗りに図柄を描いたものと、朱漆ンボの装飾を施した2点でノ瀬町の加波次吉漆器店た。市販品という。

道交法の新制度の周知をもに、輪島塗の技術の高さルしようと、市が漆器店か展示した。20日まで。

輪島塗の技術で装飾が施されたヘルメット＝輪島市役

竹芝本社ビルを視察し、最先端技術を取り入れたオフィス環境に

た。

岸市長が民間